

# 第 372 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

## 第 73 回 小児医療センターセミナー

日 時：平成 28 年 11 月 14 日 (月) 18:00～19:00

会 場：大阪大学医学部 講義棟 2 階 B 講堂 (吹田市山田丘 2-2)

### テーマ：疾患のある子どもの食生活支援

～子どもの発育と家族を支える栄養管理～

講 師： 西本 裕紀子 先生

大阪府立母子保健総合医療センター栄養管理室

小児において不適切な栄養は発育障害や肥満を引き起こす。体格が偏る児や疾患を持つ児の栄養摂取基準は明確ではなく、その管理は家族に委ねられているケースが少なくない。当施設では、発育に問題があり、その要因として栄養不良が考えられる場合、管理栄養士による栄養食事指導を継続的に行っている。

乳幼児期の発育不良は、成長曲線の軌道の確認、栄養アセスメント、食生活の詳細な聞き取りの中から、食生活リズムの乱れや不適切な食事形態、食事・ミルクの摂取バランス不良、母親の強い不安や育児ストレスなど個別の問題点を抽出し、改善を支援している。先天異常症候群児は、乳児期には筋緊張低下による哺乳不良や発達遅延に伴う摂食不良から痩せを呈することが多いが、一旦摂食機能を獲得すると食欲のコントロールが困難となり肥満に転じる例が少なくない。プラダーウィリー症候群やダウン症候群では、診断後早期から継続的にサポートし、発達レベルに合わせて食事形態をゆっくり進め、丸呑み等の食癖や偏食を乳幼児期から予防し、修正し難い食行動が生じる前に家庭で適切な食習慣を身につけられるようにしている。重症心身障がい児では、間接熱量計を用いて安静時エネルギー消費量を実測し、成長率の推移と合わせて熱量設定を行っている。さらに個々に応じて経腸栄養剤と併用して独自で考案したベースライス法ミキサー食の導入を行い、消化器症状の改善と、児と家族の QOL 向上が得られている。子どもの個別の特性を理解して積極的に介入することで、家族を支え、児の発育不良を改善し適切な食生活の確立に寄与することが、小児にかかわる栄養士の担うべき重要な役割と考える。

【連絡先】 大阪大学大学院医学系研究科小児科学 三善陽子, 大藪恵一

TEL : 06-6879-3932 FAX : 06-6879-3939

---

次回、第 373 回 CNC は、杉本 研先生のお世話で平成 29 年 1 月 16 日 (月) 開催予定です。